

## 発明品：「職人の刷毛 コウケンくん」

発明者：高良昌義さん  
(有)コウケン設備 代表取締役



上/「コウケンくん」を手にするコウケン設備代表取締役の高良昌義さん(右)と、パッケージを手にする専務取締役の高良智恵美さん。

下左/「コウケンくん」はペットボトルのふたを兼ねた刷毛と、ペンキをペットボトルへ移し替える際のジョウゴがセットになっている。刷毛の全長は22.5cm。色は黄色のみとなっている。



下右/腰袋に「コウケンくん」を入れ、脚立に登っているコウケン設備のスタッフ。「コウケンくん」についてのお問い合わせは、コウケン設備(豊見城市平良129-1) ☎098(856)0116まで。

今回紹介するのは、ペットボトルと組み合わせ、ペンキを入れたペットボトルに刷毛をしまえ、持ち運びやすくした塗装用具だ。

### 不便な作業姿勢から

ペンキ塗りには、ペンキ缶を持つままの塗り作業は難しいし、作業を中断する際、刷毛をどう洗いや保管すべきかなど、分からないことも。プロの職人さんたちにとっても、不便なこともある。

(有)コウケン設備では地元のガス会社の配管工事を請け負っており、同社の職人は配管後のパイプの継ぎ目を塗装する仕事もする。ガスの配管は高所にも敷設する場合があります。職人はペンキ缶と刷毛を持って、危険を感じつつはしごを登って作業をしていた。

### ペットボトルを活用

同社の代表取締役の高良昌義さん

## 持ち運び自在 塗装用刷毛

ん(●)は、この不便さを何とかしたいと、15年前からペットボトルのふたに接着した刷毛を自作し、ペットボトルにペンキを移し替え、刷毛とペンキの入ったペットボトルで作業をしてきた。はしごを登る際にペットボトルを腰袋に入れば、両手が自由になり、危険がなくペンキをこぼすこともない。

さらに、塗装を中断する際、刷毛を洗う必要があるが、ペットボトルに入れておけば刷毛が固まらず次回もそのまま使うことができる。

### 商品開発 九州から発売

2年前にこのペットボトルと一体化できる刷毛を実用化できないかと、高良さんは商品開発を開始。

取材・執筆  
宮川 準



みやかわ・じゅん  
一般社団法人 沖縄  
県発明協会企画主幹

まずは沖縄県金型技術研究センターの3Dプリンターで試作してもらい、刷毛の太さや長さを確認した。

次に、香港に本社を持つ加工メーカーの(株)ハーバーゾーン日本の崎濱秀和社長に相談し、より商品に近いモデルを作ってもらった。

高良さんは「市販の使い終わったペットボトルを生かし、安く購入できる商品にしたい」と500ミリのペットボトルに合わせて使える刷毛の開発に焦点を絞った。問題になったのは、プラスチック製の柄の部分で長時間ペンキにつけておくと、ペンキと反応して柄が変形すること。その問題は特殊な素材を棒の中に埋め込むことで解決。特許出願を済ませ、製品は完成した。

3月より九州の販売代理店を通じて、九州圏で販売を開始。販売を広げれば、県内でも店頭に並ぶ日は遠くない。高良さんは「この商品は細めの刷毛だが、次は広い面積を塗るための刷毛も開発したい」と意気込みを語った。|| 毎月第4週に掲載